

「学力向上実行プラン」

- 主体的に学習する力の基になる基礎的・基本的な学力の定着を目指す実践
- めあての明確化や学習の振り返りなどによる、学習意欲・学力向上を目指す授業の実践
- 読書習慣の定着を図る取り組みの充実

学力向上推進員	委員	
	校長 特別支援学級主任 1学年主任 2学年主任	3学年主任 4学年主任 5学年主任 6学年主任

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、毎学期末に評価テストを行う等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題には真面目に取り組むことができ、基礎的・基本的な知識・技能が身につけてきた。 ●習熟度が上がってはいるが、時間が経つと忘れてしまい定着しきれていないことや個人差が大きいことが課題である。 ●読書習慣が十分に身につけていない。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 四則計算の技能(低90% 中高80%) 漢字の習得率(全学年85%) ・各教科の学習や家庭学習に主体的に取り組むことができる。 (毎日(10分×学年)以上) ・読書習慣を身につけることができる。 (月目標冊数:高3冊,中5冊,低10冊)	・朝のドリル(漢字・計算)を継続し、評価テストを実施する。 ・問題文の意図、グラフ等が示す意味などを正確に読み取るため、アンダーラインを入れさせる。 ・家庭学習の状況を確認し、学年通信やホームページ等を活用して家庭にも発信することで、学習習慣の定着を図る。 ・朝の読書タイムや週末読書、親子読書の充実を図る。	・読解問題に取り組む機会を増やす。 ・学級文庫を増やす。	・小テストや反復学習で基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指したが、学年が上がるにつれ、目標達成が難しくなった。 ・やはり、学習してから時間が経つと、できないことがある。 ・読み聞かせや読書タイムの確保により、読書の習慣が身につけてきている。家庭での読書に課題がある。	・家庭との連携・TTとの連携も引き続き行い、達成できていない子への個別のアプローチをする。 ・学年間で相談し、特に大切な内容は、意識して復習の時間をとり、定着を図る。 ・宿題について学年で話し合い、適切な内容や量となるようにする。 ・音読や読書の継続で、語彙を増やしたり、文章の中で漢字を使ったりできるようにする。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の意見をしっかりと聞き、自分の考えを相手に伝えるように発表できる児童が増えてきた。 ●知識を相互に関連付けて、より深く理解したり、様々な情報から考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたりすることなどに課題がある。	・既習の知識・技能を活用して粘り強く学習課題に取り組むことができる。 ・学習の過程を通して習得した知識・技能が、既習の知識・技能と関連付けられ、他の学習や生活の場に活用することができる。	・ペア学習やグループ学習を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを活用した発表、図や表を用いた話し合い活動に取り組む。 ・発表の仕方を具体的に示す。(理由や考え方まで言う。場に応じた声の大きさで言う。等) ・日記や新聞、作文など、書く活動の充実を図る。	・高学年では、作文の際にPCを活用することで推敲する経験を積ませる。	・ペア学習やグループ学習にも慣れ、話し合いができるようになってきた。学級全体での話し合いでは、相手の意見を受け取ってのやりとりまでいかず、話し合いが深まりづらかった。 ・日記や作文で書ける量が増えてきた。	・まずは自分の意見や考えをしっかりとつとめることができるように、支援を工夫したり時間を確保したりする。 ・ディベートやトーキングゲームなど、楽しく話す機会を設け、話し合いへの抵抗感を減らすことから始めたい。 ・書くことや話すことへの必然性をもたせるような、単元の構成を工夫する。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に一生懸命取り組み、家庭学習や読書にも主体的に取り組むことができる児童が増えてきた。 ●自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの目標を設定し、課題を解決できるよう計画を立て、実践することに課題がある。	・見通しをもって、問題解決に取り組むことができる。 ・課題に対して、話し合い活動等を通して、考えを深めたり解決方法をつくりだしたりすることができる。	・課題意識や達成感、次の問題意識をもたせるために、授業のめあての明確化や、学習後の振り返りを行う。 ・興味をもって学習に取り組む、深い学びにつながるように、発問を工夫する。 ・『自主学习の手引き』を活用する。	・児童会活動のひとつであるキッズギャラリーで、見本となる自主勉を紹介し、意欲を高める。	・学習への取り組みは、前向きな児童が増えた。宿題や学習に必要な物の準備も、ほとんどの児童ができています。 ・児童の興味を高め、課題意識をもたせられるような授業の組み立てが不十分だった。	・授業後の振り返りを習慣化し、児童が自らのめあてや課題を意識できるようにする。 ・校内研修で、授業づくりに関する研修を行う。

令和6年度学力向上ロードマップ



